

今年一年の無病息災を祈って 市内各地で恒例のどんど焼き

家庭から持ち寄せられた正月の門松やしめ飾りを焼き、今年一年間の無病息災を祈る恒例のどんど焼きが1月11日に大日比地区、15日には通地区と大寧寺、1月17日には湯町地区で行われました。



▲通地区（1月15日）

やぐらの倒れた方角で今年一年間の豊漁、豊作を占う風習が百年以上も続く大日比地区では、竹やシダを使って作られた高さ約7mのやぐらが5分ほどで倒れました。今年海側と山側の中間点に倒れたので、豊漁と豊作の両方が期待されるとのことでした。



▲大寧寺（1月15日）

通地区では、通小学校の1、2年生21人が、家庭から持ち寄った正月飾りに加え、今年の願いや誓いを書いた紙を一緒に投げ入れ、一年間の誓いを立てていました。大寧寺では、地元の人や温泉旅館の関係者が訪れ、2メートル四方のやぐらの中にしめ飾りや門松などを投げ入れました。

湯の家グラウンドで行われた湯町地区のどんど焼きでは、正月飾りのほか、子どもたちが正月に書いた書き初めを持ち寄せられ、一緒に焼かれました。



▲大日比地区（1月11日）

園児が昔ながらの正月あそび

新しい年を迎え、市内の保育園や幼稚園では、園児が書き初めや凧揚げなど昔ながらの正月の遊びを体験しました。

1月8日に通保育園と向陽保育園、9日には西深川保育園の園児が書き初めに挑戦しました。

各保育園では、園児が「さるとし」や「かどまつ」、「たこあげ」など正月にちなんだ言葉を自分たちで考え、先生の指導を受けながら力強く筆を走らせていました。初めて習字をする園児がほとんどで、戸惑いながらも真剣な表情で取り組んでいました。

9日には、みすゞ保育園の園児約40人が仙崎漁港で凧揚げを楽しみました。ひごの代わりにストロークで骨組みを作ったビニール凧には、それぞれ好きなイラストが描いてあり、園児が正月遊びの中で制作しました。この日は風の弱い



▲通保育園（1月8日）

あいにくの天候でしたが、凧が揚がると園児は「凧、凧、揚がれ！ どんどん揚がれ！」と大きな歓声を上げていました。



▲みすゞ保育園（1月9日）

湯本温泉市営公衆浴場 記念入浴札無料配布

今年も漫画家広中健次さんや大寧寺、湯本子ども会の協力により、えと（さる）の絵入り記念入浴札が元旦正午から市営公衆浴場の入浴者先着100人に無料配布されました。開場前から多くの人が並び、入浴札はすぐに無くなりました。

